

新学期が始まり、キャンパスはにぎやかになった。佐賀大学には、学生を含めて約四千人の女性たちが学び、研究や教育を行い、事に従事している。七月から学内の女性たちとの懇談会を始めた。

初回は本部棟で働く女性

## 佐賀フスケツチ

職員が集まり、改修予定のトイレについて話し合った。初めてなので意見が出ないのではと心配したが、経験から「個室内に手すり

ハラスメント防止を訴えるポスター

「一回目のテーマは「子育て」で。小さな子どもを抱え

## 女性懇談会 仕事以外でも意見交換

困った」という指摘もあった。学童保育が充実していない時は、放課後の居場所確保など、時代によって苦労が違った。子どもの突然の病気に備えて実家近くに住む人、子育てと仕事の両立を考えて非常勤を選んだ人。共通するのはどの時代も「子育ての中心は母親」だった。

懇談会を始めて三カ月。一番の成果は、女性たちが「仕事以外のことについて意見を出す機会ができた」ことを喜んでいることではないか。現在、佐賀大学の意思決定の場に参画している女性は圧倒的に少ない。年代を超え、職種や性別にかかわらず参画する機会があることは、その組織の多様性と柔軟性を現す。最近、学内の男女共同参画を推進する環境整備も始まった。(佐賀大学理事・北島悦子) ※次回は二十七日の予定です。